



汝の財産は紙である

渡辺えり子

父が学生の頃、高名な古い師に人生を占ってもらったら「汝の財産は紙である」と言われたらしい。だからという訳でもあるまいが、家には昔から紙が溢れるようであった。

「本」の「ほん」である。

マツチ箱のような小さな平屋の三つしかない部屋に本箱が幾つもあり、本が幾重にも重なり、はみ出したものも置にも卓袱台にも乗っかっていた。ノートや原稿用紙も沢山あった。

母はいつもそれらを片付けたり整理したりしながら「古い師のせいだ」と愚痴を言った。貧しく、切り詰めた生活を余儀なくされていたので、本を買つより、必需品を買つて欲しかったに違いない。

「じぢぢは生まれた時から夥しい数の本に囲まれて育つたため、家の一部としてくたく自然にそれらの紙と暮らしていた。子供の頃は父の本を読もうとためである。まさに紙としか思えなかつたのである。

押入れの中に父のノートが山と積まれていた。開いてみると子供には解読できない数字や漢字だらけである。しかし、後ろの三分の二くらいが白紙である。これはもったいない、と子供心に思った。そこでこの部分に漫画を描くようになつた。教師をしていた父の研究ノートの白紙の部分は私のお絵かき帳と化したのだ。あのノートはどうなつたのだらう。数十冊はあつたノートのすべてに私の拙い漫画が残っているはずである。

父の宝の本を時々読むようになつたのは中学生の時からだつたらうか。開くと当時の父が吸つていた新生という煙草の「オイ」がしたものだ。

高村光太郎の詩集や宮沢賢治「リルケ、エドガー・アラン・ポー」などを読んだように思う。ある時、「魯迅」の本を何気なく抜き取って読もうとしたら何か絵葉書のようなものが「フリ」と落ちた。拾ってみると、着物を着て縛られた女の人が下半身を丸出しにしているモノクロの写真である。その時の驚きと気味の悪さ、そして父がこんな物を隠し持つて



渡辺えり子(わたなべ・えりこ) 1955年山形県生まれ。舞台芸術学院卒業後、劇団青俳演出部を経て、78年「劇団3 (さんじゅうまる)」を結成。83年「ゲゲゲのげ」で岸田國士戯曲賞、87年「暎の女」で紀伊國屋演劇賞を受賞。97年「劇団3」を解散。01年演劇ユニット「宇宙堂」を結成。劇作家、演出家、女優として幅広く活躍中。

いたという嫌悪感で口から臓物が出るほどのショックを覚えた。私は写真を持って外へ飛び出し、泣きながらマツチで火を点けた。写真が灰になつても涙が止まらなかつた。

翌日思い余つて母に打ち明けるとすぐに父に話したらしい。父は、ああ、前に〇〇先生の送別会で貰つた写真、そんなところに入つたのか」と笑つたという。

父がそんな写真をどうして魯迅の本に挟んでいたのかは謎であるが、ボンヤリと紗がかつたような湿つた感じの陰惨な写真のイメージは今でも脳裏に焼きついて離れないのである。

東京で演劇を始めるようになると、父の宝は私の宝にもなつた。戯曲を書くための資料がただで手に入るからである。色々なジャンルの全集がかなり揃つているため、新作を書く時には山形の実家で書くようになった。東京に戻るたびに何冊か借りてきて、そのまま返さずにいる本もかなりある。子供の頃のただの紙が私にとつても財産になつた。

PAPER Q&A Vol.3

Q. 黒液ってなんですか?

A. 製紙業界特有のバイオマスエネルギーです。

製紙業界ではオイルショック以来、省エネの一環としてバイオマスエネルギーを利用することに取り組んできました。木材をこまかく砕いたチップの中から紙をつくるための繊維を取り出すと、写真のような廃液(黒液)が出ます。リグニンという有機物が主成分ですが、これを燃料として蒸気や電力を起し、全エネルギーの約30%をまかっています。



黒液

バイオマスエネルギーとは、木炭、廃材、生ゴミなどの有機物を利用するエネルギーです。



今回は7月29日号、石田衣良さんです。

提供 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

photo : Yohei Maruyama